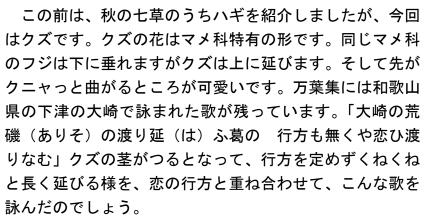
風土記の丘の花だより289

今、そしてこれから見られる植物(2025年9月20日)

夜通し鳴いているコオロギの声を聞くと、さすがに秋を感じますが、日が昇るとツクツクボウシが鳴き始めます。その声を聞くとまだまだ残暑の厳しさを感じます。彼岸が過ぎると、少しは涼しくなることを期待して、あとしばらくこの暑さを凌いで過ごすことにしましょう。







この植物もマメ科です。ネコハギの花です。花が白くて 丸まっていて、葉には毛が多くまるでネコです。旧谷村家 住宅の西斜面や万葉植物園入り口の手前などが観察しや すいと思います。でもこんな小さな草は、気がつけば刈ら れていることもあり、この花に出会うのも案外難しいのか も知れませんね。名前にハギと付きますが、一般的なハギ とはまた違う仲間です。花をよく見ると、中に紫色の部分 が見えます。それが大きいものもたまに見られます。



面白い名前の草、キツネノマゴ(狐の孫)の花です。さらに面白いことに、キツネノマゴはキツネノマゴ科、キツネノマゴ属の植物です。どうしてこんな名前になったのでしょうね。その語源については、いろいろな先生がいろいろな事を言っているようですが、どうやらはっきりしないようです。花一つ一つは可愛いですが、なにぶん小さすぎて、老眼の身としてはじっくり観察するのも一苦労です。この写真はピンク色っぽいですが、白い花も見かけます。これから、あちこちで見かけるようになるでしょう。



最後は花ではなく、コナラのどんぐりです。まだ若い緑色のままで落ちています。枝葉も付いています。不自然ですね。これはハイイロチョッキリというゾウムシの仲間の昆虫の仕業です。どんぐりをよく見ると、卵を産んだ跡が

あります。親虫は産卵を終えると枝を切り落とします。 幼虫は、どんぐりを食べて成長し、外に出て、土の中で さなぎになります。ドラマですね。コナラの木の下にた くさん落ちていますよ。探してみませんか。 松下